

○広島国際大学総合リハビリテーション学部履修規定

2013年3月6日

広学内049

改正 2023年10月19日

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規定は、広島国際大学総合リハビリテーション学部の授業科目の履修方法等について定める。

(授業科目の分類、配当年次・学期および時間数)

第2条 授業科目の分類は、卒業要件との関連で必修科目および選択科目とする。

2 開設する授業科目の分類、配当年次・学期および時間数は、別表第1のとおりとする。

3 前項の授業科目は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることがある。なお、該当科目については、学部長が別に定める。

(学科、専攻および定員)

第2条の2 本学部の学科、専攻および定員は、つぎのとおりとする。

学科	専攻	定員
リハビリテーション学科	理学療法学専攻	80名
	作業療法学専攻	40名
	言語聴覚療法学専攻	30名
	義肢装具学専攻	30名
	計	180名

(履修方法)

第3条 授業科目は、学科別に定めるところにより履修しなければならない。

(他大学および他学部等における授業科目の履修ならびにその取扱い)

第4条 教育上有益と認めたときは、他大学(外国の大学を含む)との協議に基づき、学長は、学生に当該他大学の授業科目を履修させることができる。

2 短期大学または高等専門学校専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修(平成3年度文部省告示第68号に定めるもの)を教育上有益と認めるときは、本大学における授業科目の履修とみなすことができる。

3 前2項の規定により修得した単位については、学部長は教授会の議に基づき、30単位を限度として卒業の要件として認めることができる。

4 教育上有益と認めたときは、学部間の協議に基づき、学長は、学生に他学部の科目を履修させることができる。修得した単位については前項に準じる。

5 第2条第3項により修得した単位は、60単位を超えない範囲で卒業に必要な単位数に含めることができる。

(卒業に必要な単位数)

第5条 卒業に必要な単位数は、学科別に次表のとおりとする。

科目区分		リハビリテーション学科							
		理学療法学専攻		作業療法学専攻		言語聴覚療法学専攻		義肢装具学専攻	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
スタンダード科目		15	—	15	—	15	—	15	—
オプション科目		—	8	—	4	2 *3	4 *4	—	4
専門教育科目	専門基礎分野	35	1	35	3	38	10	37	5
	専門分野	61	*1	65	*2	53	*5	62	*6
	専門総合分野	4		2		2		1	
	計	100	1	102	3	93	10	100	5
		101単位以上		105単位以上		103単位以上		105単位以上	
卒業必要単位数		115	9	117	7	110	14	115	9
		124単位以上		124単位以上		124単位以上		124単位以上	

リハビリテーション学科

① 理学療法学専攻

*1:『専門基礎分野』、『専門分野』、『専門総合分野』または以下の専攻の科目の中から1単位以上を修得すること。

専攻名	科目名
作業療法学専攻	介護予防方法論、就労支援技術学
言語聴覚療法学専攻	言語聴覚障害学概論Ⅰ、言語聴覚障害学概論Ⅱ、嚥下系障害学概論Ⅰ
義肢装具学専攻	臨床心理学、車いす論、福祉用具支援論

② 作業療法学専攻

＊2：『専門基礎分野』、『専門分野』、『専門総合分野』または以下の専攻の科目の中から3単位以上を修得すること。

その内2単位は『専門分野』の「作業療法理論」を修得すること。

専攻名	科目名
理学療法学専攻	物理療法学、運動療法学、臨床運動学、理学療法管理運営学
言語聴覚療法学専攻	言語聴覚障害学概論Ⅰ、言語聴覚障害学概論Ⅱ、嚥下系障害学概論Ⅰ
義肢装具学専攻	臨床心理学、車いす論、福祉用具支援論

③ 言語聴覚療法学専攻

＊3：「統計学(2単位)」を修得すること。

＊4：オプション科目(ベーシック)の「人間と文化」、「人間と社会」の科目区分からそれぞれ2単位の合計4単位以上を修得すること。

＊5：『専門基礎分野』基礎医学の科目区分のうち、「解剖・生理学演習」、「病態生理学(病理学含む)」、臨床医学及び歯学の科目区分のうち、「リハビリテーション医学」、「『専門総合分野』総合技術の科目区分のうち、「言語聴覚特別講義Ⅰ」、「言語聴覚特別講義Ⅱ」を含む、『専門基礎分野』、『専門分野』または以下の専攻の科目の中から10単位以上を修得すること。

専攻名	科目名
理学療法学専攻	物理療法学、運動療法学、臨床運動学、理学療法管理運営学
作業療法学専攻	介護予防方法論、就労支援技術学
義肢装具学専攻	臨床心理学、車いす論、福祉用具支援論

④ 義肢装具学専攻

＊6：『専門基礎分野』、『専門分野』、『専門総合分野』または以下の専攻の科目の中から5単位以上を修得すること。

専攻名	科目名
理学療法学専攻	物理療法学、運動療法学、臨床運動学、理学療法管理運営学
作業療法学専攻	介護予防方法論、就労支援技術学

言語聴覚療法学専攻	言語聴覚障害学概論Ⅰ、言語聴覚障害学概論Ⅱ、嚥下系障害学概論Ⅰ
-----------	---------------------------------

第2章 履修申請

(履修許可)

第6条 学生は、その年度に履修しようとする授業科目を履修申請により学部長に申請して許可を得なければならない。

(履修申請)

第7条 履修申請は、毎年学部長が定める期間および申請要領に従って、申請しなければならない。

- 2 正当な理由がなく、所定の期間内に履修申請しない者は、履修を許可しない。
- 3 既に合格または単位を認定した授業科目を再度履修することはできない。
- 4 同時限に重複して履修することはできない。
- 5 前項にかかわらず、新たに履修する科目と前年度不合格科目とが重複する場合、前年度不合格の必修科目(成績評価Dの科目に限る)について3科目以内は、再受験科目として重複申請することができる。ただし、実験・実習・演習科目、スタンダード科目およびオプション科目を除く。
- 6 授業科目によっては、その内容との関連において別に定める授業科目(以下「先修科目」という)の単位を前もって修得し、または同時に履修していなければ、当該科目の履修を許可しないことがある。
- 7 先修科目については、別表第2に定める。

(履修単位の上限)

第7条の2 1年間に履修申請できる単位数は、48単位以内とする。ただし、留学生特例科目、卒業に必要な単位数に含まれない科目および再受験科目として申請している科目を除く。

- 2 所定の単位数を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。
- 3 第1項にかかわらず、編入学した者および学部長が特に許可した者はこの限りでない。

(履修申請科目の変更等)

第8条 履修申請後は、授業時間割の変更の場合を除いて、原則として追加、訂正および変更を認めない。

(履修許可の取消し)

第9条 履修許可後においてこの規定および履修申請要領等に違反して申請していることが判明したときは、当該科目の履修許可を取り消す。

(履修辞退)

第9条の2 学生から履修辞退の申し出があった場合、教育的効果を考慮してこれを認めることがある。

2 履修辞退の手續方法、その他必要な事項は学部長が別に定める。

第3章 成績評価および試験

(成績評価等)

第10条 成績の評価は学則第26条に定めるところにより、試験のほか、学生の日常の学修状況等を勘案して行う。

2 成績はS・A・B・C・D・E・*の7種の評語をもって表し、その評価基準はつぎのとおりとする。また、それぞれのグレードポイント(以下「GP」という)はつぎのとおりとする。ただし、再試験で合格の場合はすべてCの評語とする。

「S」：100～90点(GP：4)

「A」：89～80点(GP：3)

「B」：79～70点(GP：2)

「C」：69～60点(GP：1)

「D」：59～30点(GP：0)

「E」：29～0点(GP：0)

「*」：評価不能

3 成績評価S、A、B、Cを合格とし、所定の単位を与える。

4 編入学等で単位認定を受けた授業科目は、「認」と表示する。また、再入学および転学部等で単位を認定した科目の評価は、学部長が別に定める。

5 単に合格または不合格をもって示す授業科目は、当該科目が合格の場合は「G」、不合格の場合は「F」と表示する。

6 第2項の成績評価による学業結果を有効利用するために、グレードポイントアベレージ(以下「GPA」という)を用いる。

7 前項に定めるGPAは、各履修科目の単位数にGPを乗じた積の合計を、総履修単位数で除して算出する。

8 つぎの授業科目は、GPAの計算対象としない。

イ 卒業要件に含むことができない授業科目

ロ 評価を「認」、「G」、「F」で表示する授業科目

ハ 履修辞退した授業科目(ただし、再履修した授業科目を辞退した場合は、既に評価された成績をもって計算対象とする)

ニ その他別に定める授業科目

(試験の方法等)

第11条 試験は履修許可を得た科目についてのみ受けることができるものとする。

2 試験は、当該科目の授業期間中に担当教員が随時行うものとする。

3 試験の方法は、筆記、口頭試問および実技とする。

4 教育上必要な場合は、追試験および再試験を実施することがある。

5 追試験は、病気その他やむを得ない理由により受験できなかった者に対して行う試験をいう。

6 再試験は、日常の学修状況が良好であるにもかかわらず、成績が合格点に達しなかった者に対して行う試験をいう。ただし、実験・実習・演習科目は除く。

(追試験および再試験の申請ならびに許可)

第12条 前条第5項の追試験を受けようとする者は、当該科目の試験終了日の翌日から起算して3日以内に、その理由を証明する書類を添えて受験不能届兼追試験願書を学部長に提出して許可を得なければならない。

2 再試験が受けられる授業科目数は、学部長が別に定める。

3 追試験および再試験の申請要領ならびに実施要領は、学部長が別に定める。

第4章 1年間の授業期間および授業時間

(1年間の授業期間)

第13条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(授業出席の義務)

第14条 学生は、履修許可を受けたすべての授業に出席し、遅刻、欠席等のないよう努めなければならない。

(授業時間)

第15条 授業は、2時間を1時限として、つぎのとおりとする。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9 : 00～10 : 30	10 : 40～12 : 10	13 : 00～14 : 30	14 : 40～16 : 10	16 : 20～17 : 50

第5章 進級要件

(進級要件)

第16条 各年次に進級するためには所定の単位を修得しなければならない。

リハビリテーション学科

① 理学療法学専攻

イ 第2年次

スタンダード科目	「アカデミックリテラシー」、「チュートリアル」、「専門職連携基礎演習Ⅰ」、「専門職連携基礎演習Ⅱ」を含め4単位以上を修得すること
オプション科目	—
専門教育科目	—

ロ 第3年次

スタンダード科目	—
オプション科目	—
専門教育科目	1、2年次開講の必修科目49単位のうち下記の科目を含め45単位以上を修得すること 「解剖学Ⅰ」、「解剖学Ⅱ」、「解剖学実習」、「生理学Ⅰ」、「生理学Ⅱ」、「生理学実習」、「身体運動学Ⅰ」、「身体運動学Ⅱ」、「身体運動学実習」、「運動療法学」、「運動療法実習」、「物理療法学」、「理学療法評価学概論」、「運動機能障害評価学実習Ⅰ」「運動機能障害評価学実習Ⅱ」、「神経系理学療法評価学演習」、「生活活動評価学」、「内部系理学療法評価学」、「臨床見学実習」

ハ 第4年次

スタンダード科目	—
オプション科目	—
専門教育科目	1～3年次開講科目のすべての必修科目を修得すること

② 作業療法学専攻

イ 第2年次

スタンダード科目	「アカデミックリテラシー」、「チュートリアル」、「専門職連携基礎演習Ⅰ」、「専門職連携基礎演習Ⅱ」を含め
----------	--

	4単位以上を修得すること
オプション科目	—
専門教育科目	「地域リハビリテーション実習」を修得すること

ロ 第3年次

スタンダード科目	—
オプション科目	—
専門教育科目	「見学実習」を修得すること

ハ 第4年次

スタンダード科目	—
オプション科目	—
専門教育科目	「評価実習」を修得すること

③ 言語聴覚療法学専攻

イ 第2年次

スタンダード科目	「アカデミックリテラシー」、「チュートリアル」、「専門職連携基礎演習Ⅰ」、「専門職連携基礎演習Ⅱ」を含め4単位以上を修得すること
オプション科目	—
専門教育科目	1年次開講科目のうち、必修科目15単位以上を修得すること

ロ 第3年次

スタンダード科目	—
オプション科目	—
専門教育科目	1、2年次開講の必修科目および「解剖・生理学演習」、「リハビリテーション医学」を含め46単位以上を修得すること

ハ 第4年次

スタンダード科目	—
オプション科目	—
専門教育科目	「臨床実習Ⅱ」を修得すること

④ 義肢装具学専攻

イ 第2年次

スタンダード科目	「アカデミックリテラシー」、「チュートリアル」、「専門職連携基礎演習Ⅰ」、「専門職連携基礎演習Ⅱ」を含め4単位以上を修得すること
オプション科目	—
専門教育科目	1年次開講科目のうち、「義肢装具基礎工作実習」を含め必修科目を20単位以上修得すること

ロ 第3年次

スタンダード科目	—
オプション科目	—
専門教育科目	1、2年次開講科目のうち、「義肢Ⅰ実習(下腿義足)」、「装具Ⅰ実習(体幹装具)」、「装具Ⅱ実習(靴型装具)」を含め必修科目を50単位以上修得すること

ハ 第4年次

スタンダード科目	—
オプション科目	—
専門教育科目	1～3年次開講科目のうち、「義肢Ⅰ(下腿義足)」、「装具Ⅰ(体幹装具)」、「義肢Ⅱ実習(義手)」、「義肢Ⅲ実習(大腿義足)」、「装具Ⅲ実習(下肢装具)」、「装具Ⅳ実習(上肢装具)」を含め必修科目を80単位以上修得すること

2 前項にかかわらず、学部長が特に認めた者はこの限りでない。

第6章 雑則

(その他)

第17条 この規定に定めるもののほか、授業科目の履修等に関して必要な事項は、学部長が定める。

(規定の改廃)

第18条 この規定の改廃は、大学・大学院運営会議および教授会の議を経て、学長が行う。

付 則

- 1 この規定は、2013年4月1日から施行する。
- 2 この改正規定は、2024年4月1日から施行する。
- 3 2023年度以前の入学者の履修については、なお従前の例による。

別表第1 開設する授業科目の分類、配当年次・学期および時間数

1 スタンダード科目

注

1 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目

2 時間数を()で囲んだ授業科目は前期または後期で開講する。

科目区分	授業科目	単位 数	配当年次・学期・時間数								備考
			1年次		2年次		3年次		4年次		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
スタンダード科目	アカデミックリテラシー	①	30								
	チュートリアル	①	30								
	専門職連携基礎演習Ⅰ	①	(30)	(30)							
	専門職連携基礎演習Ⅱ	①	(30)	(30)							
	専門職連携総合演習Ⅰ	①			(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	
	専門職連携総合演習Ⅱ	①			(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	
	地域創生と危機管理	①	(30)	(30)							
	情報リテラシー	①	30								
	データサイエンスⅠ	①	30								
	英語コミュニケーションⅠ	①	30								
	英語コミュニケーションⅡ	①		30							
	英語リーディングⅠ	①	30								
英語リーディングⅡ	①		30								

	総合	日本語表現法	2	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
		コミュニケーション論	2	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
オ ブ シ ョ ン 科 目 (ア ド バ ン ス ド)	グロー バル	Reading & Writing	1			(30)	(30)	(30)	(30)			
		英語プレゼンテーション	1			(30)	(30)	(30)	(30)			
		検定英語	1			(30)	(30)	(30)	(30)			
		グローバル化と人間a	1	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
		グローバル化と人間b	1	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
	情報学	データサイエンスⅡ	1	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
		データサイエンスⅢ	1	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
		プログラミングⅡ	1	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
	保健体 育	スポーツ実習Ⅱ	1	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
	人間と 文化	人間と文化a	1	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
		人間と文化b	1	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
	人間と 社会	人間と社会a	1	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
		人間と社会b	1	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
	人間と 自然	人間と自然a	1	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
		人間と自然b	1	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
	総合	教養ゼミ	1	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			

【留学生特例科目】

科目区分	授業科目	単位 数	配当年次・学期・時間数								備考
			1年次		2年次		3年次		4年次		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	

オプション シヨ ン	人間と 社会	日本事情a	2	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
		日本事情b	2	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
	グロー バル	日本語Ⅰ	2	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			
		日本語Ⅱ	2	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)	(30)			

〔注〕留学生特例科目において修得した単位は、学部および学科で履修すべき単位数のうち、つぎに掲げるもので代えることができる。

ただし、その履修に関しては学部または学科の指示に従うものとする。

1 オプション科目(ベーシック)の人間と社会の2単位までを「日本事情a」または「日本事情b」の単位数

2 オプション科目のグローバルの4単位までを「日本語Ⅰ」、「日本語Ⅱ」の単位数

3 専門教育科目

イ リハビリテーション学科

① 理学療法学専攻

注

1 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目

2 時間数を()で囲んだ授業科目は前期または後期で開講する。

科目区分		授業科目	単位 数	配当年次・学期・時間数								備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門 基礎 分野	人体 の構 造と 機能 及び 心身 の発 達	解剖学Ⅰ	②	(30)	(30)							
		解剖学Ⅱ	②	(30)	(30)							
		解剖学実習	①	(45)	(45)							
		生理学Ⅰ	②	(30)	(30)							
		生理学Ⅱ	②			(30)	(30)					
		生理学実習	②			(60)	(60)					
		身体運動学Ⅰ	①	(30)	(30)							
		身体運動学Ⅱ	①			(30)	(30)					
		身体運動学実習	②			(60)	(60)					

疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	人間発達学	①	(30)	(30)							
	生命倫理	②	(30)	(30)							
	医学概論	②	(30)	(30)							
	リハビリテーション心理学	①			(30)	(30)					
	内科学Ⅰ	①			(30)	(30)					
	内科学Ⅱ	①			(30)	(30)					
	整形外科Ⅰ	①			(30)	(30)					
	整形外科Ⅱ	①			(30)	(30)					
	精神医学	①			(30)	(30)					
	脳神経学	②			(30)	(30)					
	加齢医学	①					(15)	(15)			
	病態生理学	②					(30)	(30)			
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	②	(30)	(30)						
		公衆衛生学	②	(30)	(30)						
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論	①	(30)	(30)						
	理学療法学	理学療法研究法	①						(30)	(30)	
	理学療法学	基本動作介助法	①			(15)	(15)				
	理学療法学	臨床運動学	①					(30)	(30)		
	理学療法学	臨床運動学実習	②					(60)	(60)		
	理学療法学	理学療法評価学概論	①			(30)	(30)				

	評価学	運動機能障害評価学実習Ⅰ	②			(60)	(60)						
		運動機能障害評価学実習Ⅱ	②			(60)	(60)						
		神経系理学療法評価学演習	①			(30)	(30)						
		生活活動評価学	①			(30)	(30)						
		内部系理学療法評価学	①			(30)	(30)						
	理学療法治療学	運動療法学	①			(30)	(30)						
		運動療法実習	①			(45)	(45)						
		物理療法学	①			(30)	(30)						
		物理療法実習	①					(45)	(45)				
		義肢・装具学	①					(30)	(30)				
		運動器理学療法治療学概論	①					(30)	(30)				
		運動器理学療法治療学実習	②					(60)	(60)				
		スポーツ理学療法学	①					(30)	(30)				
		中枢神経系理学療法治療学概論Ⅰ	①					(30)	(30)				
		中枢神経系理学療法治療学概論Ⅱ	①					(30)	(30)				
		中枢神経系理学療法治療学実習	②					(60)	(60)				
		発達障害理学療法学	①					(30)	(30)				
		内部障害理学療法治療学概論Ⅰ	①					(30)	(30)				

		内部障害理学療法 治療学概論Ⅱ	①					(30)	(30)			
		内部障害理学療法 治療学実習	②					(60)	(60)			
		生活支援系理学療 法学概論	①					(30)	(30)			
		生活支援系理学療 法学実習	②					(60)	(60)			
		スポーツ理学療法 演習	1							(15)	(15)	
		高次機能障害理学 療法学演習	1							(15)	(15)	
		Women' s／ Men' s health理 学療法演習	1							(15)	(15)	
		運動器疼痛理学療 法演習	1							(15)	(15)	
		介護予防理学療法 演習	1							(15)	(15)	
	地域 理学 療法 学	ヘルスプロモーシ ョン論	①			(15)	(15)					
		地域理学療法学	①					(30)	(30)			
		地域在宅理学療法 学演習	①							(30)	(30)	
	理学	理学療法演習	②							(30)	(30)	
	療法 管理 学	理学療法管理運営 学	①							(30)	(30)	
	臨床 実習	臨床見学実習	①	(45)	(45)							
		臨床評価実習Ⅰ	②			(90)	(90)					

		臨床評価実習Ⅱ	⑥					(270)	(270)			
		総合臨床実習	⑩							(450)	(450)	
		地域理学療法実習	①							(45)	(45)	
専門 総合 分野	総合 技術	卒業研究	④							120		

② 作業療法学専攻

注

1 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目

2 時間数を()で囲んだ授業科目は前期または後期で開講する。

科目区分		授業科目	単位 数	配当年次・学期・時間数								備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門 基礎 分野	人体	解剖学Ⅰ	②	(30)	(30)							
	の構	解剖学Ⅱ	②	(30)	(30)							
	造と	解剖学実習	①	(45)	(45)							
	機能	生理学Ⅰ	②	(30)	(30)							
	及び	生理学Ⅱ	②			(30)	(30)					
	心身	生理学実習	①			(45)	(45)					
	の発	運動学	②	(30)	(30)							
	達	運動学実習	①			(45)	(45)					
		人間発達学	②	(30)	(30)							
	疾病	医学概論	②	(30)	(30)							
	と障	内科学Ⅰ	①			(30)	(30)					
	害の	内科学Ⅱ	①			(30)	(30)					
	成り	整形外科学	②			(30)	(30)					
	立ち	精神医学	②			(30)	(30)					
	及び	脳神経学	②			(30)	(30)					
	回復	加齢医学	②					(30)	(30)			
	過程	病態生理学	②					(30)	(30)			

	の促進											
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学 生命倫理 発達障害学 リハビリテーション心理学	② ② ② 1	(30) (30) (30)	(30) (30) (30)							
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論 作業療法研究法 作業学 作業学実習 作業療法理論	① ① ① ① ①	(30) (30) (45) ①	(30) (30) (45) (30)							
	作業療法管理学	作業療法管理学	②		(30)	(30)						
	作業療法評価学	作業療法評価学総論 神経系機能能力評価学 神経系機能能力評価学実習 運動系機能能力評価学 運動系機能能力評価学実習	① ① ① ① ①		(30) (30) (45) (30) (45)	(30) (30) (45) (30) (45)						

	精神・認知機能能力評価学	①			(30)	(30)					
作業療法 治療学	作業療法治療学総論	②			(30)	(30)					
	内部障害作業療法学	②					(30)	(30)			
	内部障害作業療法学演習	①					(30)	(30)			
	脳血管障害作業療法学	①					(30)	(30)			
	脳血管障害作業療法学演習	①					(30)	(30)			
	運動器障害作業療法学	①					(30)	(30)			
	運動器障害作業療法学演習	①					(30)	(30)			
	老年期作業療法学	①					(30)	(30)			
	老年期作業療法学演習	①					(30)	(30)			
	発達障害作業療法学	①					(30)	(30)			
	発達障害作業療法学演習	①					(30)	(30)			
	精神障害作業療法学	①					(30)	(30)			
	精神障害作業療法学演習	①					(30)	(30)			
	義肢装具学概論	②					(30)	(30)			
	日常生活活動学	①			(30)	(30)					
	日常生活活動学実	①			(45)	(45)					

		習										
地域	地域作業療法学	①					(30)	(30)				
作業	公衆衛生学	1	(30)	(30)								
療法	ヘルスプロモーション論	2			(30)	(30)						
学	介護予防方法論	①			(30)	(30)						
	福祉住環境コーディネート論	①			(30)	(30)						
	就労支援技術学	①					(30)	(30)				
臨床	地域リハビリテーション実習	①	(45)	(45)								
実習	見学実習	②			(90)	(90)						
	評価実習	④					(180)	(180)				
	総合臨床実習	⑬							(810)	(810)		
	卒業研究	④							120			
専門	総合	作業療法学演習Ⅰ	1			(30)	(30)					
総合	技術	作業療法学演習Ⅱ	①					(30)	(30)			
分野		作業療法学演習Ⅲ	①							(30)	(30)	

③ 言語聴覚療法学専攻

注

1 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目

2 時間数を()で囲んだ授業科目は前期または後期で開講する。

科目区分		授業科目	単位 数	配当年次・学期・時間数								備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門 基礎 分野	基礎 医学	医学概論	②	(30)	(30)							
		解剖学	②	(30)	(30)							
		生理学	②	(30)	(30)							
		解剖・生理学演習	1			(30)	(30)					
		病態生理学(病理学)	2					(30)	(30)			

		含む)											
		人間発達学	2	(30)	(30)								
		公衆衛生学	1	(30)	(30)								
		加齢医学	2					(30)	(30)				
臨床 医学 及び 歯学	リハビリテーショ ン精神医学	②			(30)	(30)							
	小児科学	②			(30)	(30)							
	リハビリテーショ ン医学	1			(30)	(30)							
	内科学	①			(30)	(30)							
	リハビリテーショ ン脳神経学	①			(30)	(30)							
	耳鼻咽喉科学	②			(30)	(30)							
	形成外科学	①			(30)	(30)							
	歯科口腔外科学	①			(30)	(30)							
音声 言語 聴覚 医学	脳神経機能評価学	②			(30)	(30)							
	音声聴覚医学	①	(30)	(30)									
音声 学・理 言語 学	言語理論と言語心 理	②	(30)	(30)									
	音声学	②	(30)	(30)									
	音響・聴覚心理学	②			(30)	(30)							
	言語発達学	②	(30)	(30)									
心理 学	カウンセリング	2					(30)	(30)					
	臨床心理学	②	(30)	(30)									
	発達心理学	②	(30)	(30)									
	学習心理学	2			(30)	(30)							
	認知心理学	②			(30)	(30)							
	心理測定法	②					(30)	(30)					

		音楽療法概論	2					(30)	(30)			
		グループダイナミクス	1					(30)	(30)			
	社会福祉・教育	リハビリテーション概論	②	(30)	(30)							
		特別支援教育総論	2					(30)	(30)			
		社会保障制度論(関係法規含む)	①					(30)	(30)			
		生活環境科学	2					(30)	(30)			
		ヘルスプロモーション論	2			(30)	(30)					
専門分野	障害学総論	言語聴覚障害学概論Ⅰ	②	(30)	(30)							
		言語聴覚障害学概論Ⅱ	②	(30)	(30)							
	言語発達障害学	発達系障害学概論Ⅰ	②			(30)	(30)					
		発達系障害学概論Ⅱ	②			(30)	(30)					
		発達系障害学演習Ⅰ	①					(30)	(30)			
		発達系障害学演習Ⅱ	①					(30)	(30)			
	高次脳機能障害学	認知系障害学概論Ⅰ	②			(30)	(30)					
		認知系障害学概論Ⅱ	②			(30)	(30)					
		認知系障害学演習Ⅰ	①					(30)	(30)			
		認知系障害学演習Ⅱ	①					(30)	(30)			

		Ⅱ										
発声	発声発語系障害学	②			(30)	(30)						
発語	概論Ⅰ											
嚥下	発声発語系障害学	②			(30)	(30)						
障害	概論Ⅱ											
学	発声発語系障害学	①					(30)	(30)				
	演習											
	拡大・代替コミュニケーション論	1							(30)	(30)		
	嚥下系障害学概論Ⅰ	②			(30)	(30)						
	嚥下系障害学概論Ⅱ	②			(30)	(30)						
	嚥下系障害学演習	①					(30)	(30)				
聴覚	聴覚系障害学概論Ⅰ	②			(30)	(30)						
障害												
学	聴覚系障害学概論Ⅱ	②			(30)	(30)						
	聴覚系障害学演習Ⅰ	①					(30)	(30)				
	聴覚系障害学演習Ⅱ	②					(30)	(30)				
臨床	臨床実習Ⅰ	①			(45)	(45)						
実習	臨床実習Ⅱ	④					(180)	(180)				
	臨床実習Ⅲ	⑦							(315)	(315)		
	臨床研究Ⅰ	②					(30)	(30)				
	臨床研究Ⅱ	②					(30)	(30)				
	卒業研究	④							120			
専門	総合	言語聴覚学演習	②						(60)	(60)		
総合	技術	言語聴覚特別講義	2						(60)	(60)		

	進	生命倫理	②			(30)	(30)					
		福祉住環境学	①					(30)	(30)			
	保健 医療 福祉	リハビリテーション医学	①	(30)	(30)							
		関係法規	①					(30)	(30)			
	とり	作業療法概論	①			(30)	(30)					
	ハビ リテ ーシ ョン の理 念	理学療法概論	①			(30)	(30)					
	義肢 装具 領域	図学・製図学	①	(30)	(30)							
		機構学	①			(30)	(30)					
	にお ける 工学	制御工学	①			(30)	(30)					
		統計学演習	①			(30)	(30)					
		リハビリテーション工学	②					(30)	(30)			
		義肢装具生体力学	②					(30)	(30)			
		義肢装具生体力学	②					(60)	(60)			
		実習										
専門 分野	基礎 義肢 装具 学	義肢装具学概論	②	(30)	(30)							
		義肢装具基礎工作	①	(30)	(30)							
		実習										
		義肢装具材料学	②	(30)	(30)							
		義肢装具材料力学	②			(30)	(30)					
		装具基礎工作論	①	(30)	(30)							
		装具基礎工作実習	④	(120)	(120)							
		義肢基礎工作論	①	(30)	(30)							
		義肢基礎工作実習	④	(120)	(120)							

	義肢学	義肢Ⅰ(下腿義足)	①			(30)	(30)					
		義肢Ⅰ実習(下腿義足)	③			(135)	(135)					
		義肢Ⅱ(義手)	①					(30)	(30)			
		義肢Ⅱ実習(義手)	②					(60)	(60)			
		義肢Ⅲ(大腿義足)	①					(30)	(30)			
		義肢Ⅲ実習(大腿義足)	③					(135)	(135)			
		義肢Ⅳ(特殊義肢)	①							(15)	(15)	
	装具学	装具Ⅰ(体幹装具)	①			(30)	(30)					
		装具Ⅰ実習(体幹装具)	③			(135)	(135)					
		装具Ⅱ(靴型装具)	①			(30)	(30)					
		装具Ⅱ実習(靴型装具)	②			(60)	(60)					
		装具Ⅲ(下肢装具)	①					(30)	(30)			
		装具Ⅲ実習(下肢装具)	③					(135)	(135)			
		装具Ⅳ(上肢装具)	①					(30)	(30)			
		装具Ⅳ実習(上肢装具)	④					(120)	(120)			
	福祉用具学	車いす論	①			(30)	(30)					
		福祉用具支援論	①			(30)	(30)					
		座位保持装置論	①					(30)	(30)			
	臨床実習	臨床実習Ⅱ	④					(180)	(180)			
		臨床実習Ⅲ	⑥							(270)	(270)	
		卒業研究	④							120		
専門総合分野	総合技術	義肢装具学演習	①							(30)	(30)	
		臨床実習Ⅰ	1			(45)	(45)					
		基礎経営学	1			(30)	(30)					

	Digital Brace Manufacturing(D BM)	1			(30)	(30)					
	Digital Feature Fitting(DFF)	1			(30)	(30)					
	膝継手学	1					(30)	(30)			
	キャリアセミナー	1					(15)	(15)			
	スポーツ用具学	1					(30)	(30)			
	特殊補装具学(エピソード)	1					(30)	(30)			
	臨床装具学	1							(30)	(30)	

別表第2

先修科目

A欄に掲げる授業科目を履修するためには、B欄に掲げる授業科目(先修科目)の単位を前もって修得し、または同時に履修していなければならない。

[リハビリテーション学科]

①理学療法学専攻

A欄	B欄
臨床評価実習Ⅰ(2年次)	1、2年次開講の必修科目49単位のうち以下の科目を含め45単位以上を修得すること。 「解剖学Ⅰ」、「解剖学Ⅱ」、「解剖学実習」、「生理学Ⅰ」、「生理学Ⅱ」、「生理学実習」、「身体運動学Ⅰ」、「身体運動学Ⅱ」、「身体運動学実習」「運動療法学」、「運動療法実習」「物理療法学」「理学療法評価学概論」、「運動機能障害評価学実習Ⅰ」、「運動機能障害評価学実習Ⅱ」、「神経系理学療法評価学演習」、「生活活動評価学」、「内部系理学療法評価学」、「臨床見学実習」
臨床評価実習Ⅱ(3年次)	臨床評価実習Ⅰ
総合臨床実習(4年次)	臨床評価実習Ⅱ

②作業療法学専攻

A欄	B欄
見学実習(2年次)	作業療法概論(同時履修不可)
	リハビリテーション医学(同時履修不可)
	地域リハビリテーション実習(同時履修不可)
評価実習(3年次)	作業療法評価学総論(同時履修不可)
	神経系機能能力評価学実習(同時履修不可)
	運動系機能能力評価学実習(同時履修不可)
	精神・認知機能能力評価学(同時履修不可)
	見学実習(同時履修不可)
	解剖学Ⅰ(同時履修不可)
総合臨床実習(4年次)	1～3年次開講の全ての必修科目の単位を修得していること。

③言語聴覚療法学専攻

A欄	B欄
臨床実習Ⅰ(2年次)	言語聴覚障害学概論Ⅰ(同時履修不可)
	言語聴覚障害学概論Ⅱ(同時履修不可)
臨床実習Ⅱ(3年次)	臨床実習Ⅰ(同時履修不可)
臨床実習Ⅲ(4年次)	臨床実習Ⅱ(同時履修不可)

④義肢装具学専攻

A欄	B欄
臨床実習Ⅱ(3年次)	解剖学Ⅰ
	解剖学Ⅱ
	リハビリテーション整形外科Ⅰ
	リハビリテーション整形外科Ⅱ
	機能解剖学
	リハビリテーション脳神経学
	義肢Ⅰ(下腿義足)
	装具Ⅰ(体幹装具)
臨床実習Ⅲ(4年次)	臨床実習Ⅱ(同時履修不可)

